

コロナ飲み薬、2割で「再燃」 ウイルス増、うつす恐れも

11/14 共同通信



【ワシントン共同】新型コロナウイルス感染症の飲み薬パキロビッドを使った患者の21%に、一度は陰性となった検査結果が陽性に転じ、ウイルス量が増える「リバウンド（再燃）」が起きたと、米マサチューセッツ総合病院のチームが13日、米内科学会誌に発表した。無治療の人がぶり返す割合は2%だった。

再燃した人の93%は、治療終了から5日後の時点で陽性で、人にうつす危険性があった。再燃しなかった人ではこの時点で陽性の人はいなかった。チームは「5日後に迅速抗原検査をすれば、長めに隔離すべき人が特定できそうだ」と指摘。入院や死亡を防ぐという薬の効果には疑いがなく、使用を控えるべきではないとも強調した。

倉持仁院長「コロナきて4年目、検査もできなくなるとは」キットや薬の不足嘆く「こんなに物がなくて」

11/8(水) 18:11 配信中日スポーツ

新型コロナウイルスの診療に取り組み、メディアでは医療現場の声を発信する宇都宮市のインターパーク倉持呼吸器内科・倉持仁院長が8日、自身のX（旧ツイッター）を更新。「医者になって25年。こんなに物がなくてこと経験したことはありません」と薬などの枯渇と思われる状況に苦しい胸の内を明かした。

10月21日にXで「リコンデもメジコンさえも、全ての咳止めがなくなりました。ここわ日本か！」と投稿。11月5日には「検査キットがなくなっております。コロナがきて4年目、感染対策の強化がなされるのかと思ったら、全く逆で薬も検査もできなくなるとは、は一」と憤り続けてきた倉持院長。

「これが通常の状態になるのかと思うと、だいぶ前ですが、昭和の頃のがよかったかも。物はなかったけど夢はあった気がします」と嘆くと、フォロワーは「薬に限ればメーカーで作れないと言われ始めて2年は経つと思うけど、まだ製薬メーカーは準備が整わないんですか？ ちょっと信じられないトロさ」「今は夢も無い！ 安い日本だから」「でも、今、日本には倉持Dr. がいるじゃないか」と励ましの声を送った。